

## ヨハネの福音書 第3章 8節

「風はその思いのままに吹き、あなたはその音を聞くが、それがどこから来てどこへ行くのかを知らない。御霊によって生まれる者もみな、そのとおりです。」

昨日木枯らし一号のような強風が街並みを吹き抜けた。かなりの時間吹き続けていた。少し開いていた窓からは土埃が入り込み、窓辺をよごしていた。隙間から入り込んだようである。あれほど木立を揺さぶり、電線に吹きつけピューピューと音を奏でていた風が、今日はピタリと止んだ。昨日の一瞬のおとずれ、冬の前触れであった。今日は穏やかな秋空である。

昨日の風に吹かれた者たちは、やがて来る冬の感触を味わった。昨日の風に揺さぶられた自然は、やがて迫る冬への覚悟を決め備えただろう。あの風に会わなければ起こらなかったことだ。

ここでヨハネに紹介されている風は自由に吹き、音を聞くことができる。木枯らしの音ではない。神のことばの響きである。自然の風のように、どこから来てどこへ行くのかは、聞く者の手中にはおさまらない。ただ、このことばを信じて受ける者に宿る風である。信頼して受け止めるなら、吹き去ることはない。御霊によって生まれる者となる。風と共に生きる者となる。

2021年10月21日